

# 通年性鼻アレルギーに対するMSアンチゲン エアロゾル療法の open trial 治療成績

秋田大学 耳鼻咽喉科

今野昭義, 寺田修久, 吉野泰弘

MSアンチゲンは作用機序に不明な点はあるがアレルギー疾患に対する注射用薬剤として長い間用いられてきた。また最近はいくつかの施設において鼻アレルギー症例を対象として本剤を用いたエアロゾル療法が行われ、かなりの成績が報告されている。今度われわれは対象症例を中等症以上の症例を持つハウスダスト・ダニ鼻アレルギー症例に限定してMSアンチゲンエアロゾル療法を行う機会があったので、その効果を検討し、治療成績を確認する。

## 対象および方法

対象はハウスダスト・ダニを抗原とする鼻アレルギー24症例であり、いずれも奥田分類にて中等症以上の鼻症状を示すものである。年齢は12～39歳(24±10歳)である。治療方法はMSアンチゲン40, 1アンプルを蒸留水で溶解して1mlとして、ジェット型ネブライザーを用いて週2回の頻度で16回、8週間nebulizationを行った。重症度および治療効果判定は奥田の基準に従って行った。

## 成績

### 1. アレルギー日記より判定した自覚症状の症状別改善率

(1) くしゃみ: 治療期間4週, 8週ともに改善以上の改善率は50%であった。しかし8週では4週と比較して消失および著明改善を示す症例が増した。

(2) 鼻汁: 4週で45%, 8週では58%の症例で改善以上の効果が認められた。

(3) 鼻閉: 4週で41%, 8週で54%の症例で改善以上の改善率が認められた。

### 2. 他覚的所見改善率

(1) 鼻汁量: 8週後における改善以上の改善率は41%であり、日記上の効果よりやや劣る。

(2) 下甲介粘膜腫脹: 8週後における改善以上の改善率は50%であり、日記上の効果とほぼ同じである。

(3) 鼻粘膜抗原誘発: 4週で33%, 8週で50%の症例で改善以上の改善が認められた。

(4) 鼻汁好酸球数: 8週後における改善以上の改善率は45%であった。

### 3. 全般的改善度

改善以上の改善率は4週後50%, 8週後58%であった。4週と8週で改善以上の改善率には明らかな差はないが、8週で著明改善を示す症例がふえている。

### 4. 患者自身の判定

有用以上の有効率を示す症例は4週で33%, 8週で41%であった。やや有効を含めると有効率は4週で58%, 8週で62%であった。

### 5. 有用度

エアロゾルが当たると思われる鼻中隔Kiselbachii部にびらんが生じ、鼻出血を伴った症例が2例あった。これはnebulizationに際して前鼻孔に挿入するノズルの方向の誤まり、即ち我々の患者に対する不十分な指導に直接の原因があると思われた。これらを副作用とすると2症例ともに改善以上の改善を示す症例であったために有用以上の有用率は4週で45%, 8週で54%となった。

## 考 察

以上の成績はこれまで報告されてきた他施設におけるMSアンチゲンエアロゾル療法の成績と比較してやや劣るが、これは今回の対象を中等度以上の症例に限ったためと考えられる。今後、double blind studyによる検討の他に、MSアンチゲン1回使用量の違い、ジェット型ネブライザー、超音波ネブライザーの使用機器の違いが臨床効果に与える影響も検討する必要がある。

## ————— 討 論 —————

質問；季（鹿児島大耳鼻科）

エアロゾルとネブライザーの区別について説明して下さい。

応答；今野（秋田大）

エアロゾル療法もネブライザー療法も同じ意味で用いている。